

神奈川大学日本常民文化研究所基幹共同研究「布の製作と利用に関する総合的研究」第1回研究会・比較民俗研究会第188回・浙江理工大学服装学院共催国際学術ワークショップ：東アジアの布文化と衣生活の伝統



基調講演

木綿：世界の繊維革命と日本の服飾文化

松尾恒一 氏

国立歴史民俗博物館教授

2025年9月24日（水） 9:40～11:20



対面開催：横浜校舎30号館B101会議室

オンライン：Zoomミーティング

※対面にて参加の場合は申込不要

オンライン参加 申込フォーム

申込み後、IDとパスコードが
自動返信メールにて送信され
ます。



神奈川大学日本常民文化研究所

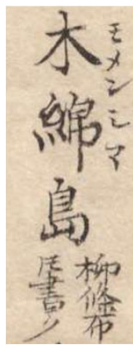
木綿：世界の繊維革命と日本の服飾文化

〔要旨〕

日本では、15世紀頃に中国大陆や朝鮮半島から木綿とその栽培・加工技術が伝わり、三河や河内などの温暖な地域を中心に普及した。それ以前、庶民の衣服は麻が主流であったが、木綿は保温性・肌触りに優れ、江戸時代には庶民の衣服の布として急速に広まった。そうした日本における木綿の先進性を指摘したのは、柳田國男『木綿以前の事』（1938年、千歳出版）であるが、本発表では、江戸時代、日蘭貿易によってもたらされた、インド・東南アジアの木綿にも注目する。

木綿はほぼ同じ頃、ヨーロッパやアメリカ大陸にも広まった。イギリスにおいては産業革命による機械紡織により、廉価な綿糸・布の大量生産が始まった。アメリカでは、黒人奴隷によりプランテーションで栽培されるが、インディゴ（藍）染めされた綿糸によるジーンズが鉱山労働者のための丈夫なズボンとして、リーバイス兄弟により発明され、さらに1960年代以降にはアメリカにとどまらず世界のファッションに大きな影響を与えた。

世界における木綿の普及、拡大の状況を視野に入れつつ、日本の木綿の布・服飾の文化・社会的な意義と特質を考える。



② 創業100年を超える大谷はきもの店（三重県津市）の縞柄の松坂木綿。柳條布を起源とする縞柄木綿。（大谷はきもの店の公式ホームページ）

③ 歌川国芳画『美人大首絵 大願成就有ヶ瀧 縞』（東京都立図書館蔵）江戸時代には、東南アジア起源の縞柄デザインが流行していた。

- ① 『安南紀略』（国立公文書館蔵）安南国から伝えられた「柳條布」の記述。「縞（しま）」の名前が、島々を伝わって日本に伝えられたことを由来とすることがわかる

